

平成28年度和歌山県名匠

おく の まこと
奥 野 誠

◎ 業績及び経歴

武蔵野美術大学造形学部を卒業後、美術専門学校講師を務めながら美術造形作家として活動を始める。昭和59年に職を辞し、家族で大阪から旧龍神村に移り住み、芸術による村おこしを目的とする「龍神国際芸術村」の運営に携わる。その活動の中で、「山路紙」の存在を知り、紙漉きを始める。

日高川上流域は楮の産地であり、その楮を原料とする山路紙は、古くから龍神村で漉かれ、地域の主要な産物の一つであった。しかし、洋紙の普及とともに、戦後間もなく紙漉きの伝統は途絶えた。氏は、かつて紙漉きをしていた職人や村人に話を聞き、原料や道具、漉き方等について研究を重ね、素朴で力強さを特徴とする山路紙を復活させる。平成21年に開設された「田辺市龍神山路紙保存伝承施設」を運営し、原料の採取に始まる製作の全工程を昔ながらの手作業で行い、匠として技術の向上に努めている。

長年にわたり地元小学生に卒業証書作りを指導し、一般の人々を対象にした紙漉き体験教室を開くなど、和紙文化の伝承・普及に努めている。また、紙漉きだけでなく、原料の楮の特性を生かした様々な芸術作品を制作、展覧会で発表し、高い評価を得るなど山路紙の魅力を広く伝えている。平成23年には、全国税理士共栄会文化財団地域文化賞を受賞、「全国手漉き和紙青年の集い和歌山大会」を主催するなど、和紙文化の発展にも尽力しており、その功績は多大である。

職 種：紙漉き

住 所：和歌山県田辺市

生 年：昭和28年